
日本図書館文化史研究会

ニューズレター

第 101 号 2007 年 7 月 22 日

日本図書館文化史研究会

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jalih/index.html>

〒101-8301 千代田区神田駿河台 1-1

明治大学司書・司書教諭課程

郵便振替口座 00170-5-164973

(事務局)

小黒浩司

■■ 目 次 ■■

日本図書館文化史研究会 2007 年度研究集会のご案内	2
日本図書館文化史研究会創立 25 周年記念	
『図書館人物伝(仮称)』の概要	8
日本図書館文化史研究会 2006 年度活動報告(2006.4-2007.3)	9
日本図書館文化史研究会 2006 会計年度決算報告(2005.4-2006.3)	10
日本図書館文化史研究会 2007 年度予算(案)	11
『図書館文化史研究』24 号発行のお知らせ	12
『図書館文化史研究』第 25 号原稿募集のお知らせ	
日本図書館文化史研究会 2007 年度第 1 回研究例会報告	13
日本図書館文化史研究会 2007 年度第 3 回研究例会のご案内	14
運営委員会通信	15
事務局だより	16
会費納入のお願い	
住所変更のご連絡をお願いします	
会員動向	

日本図書館文化史研究会

創立 25 周年記念 2007 年度研究集会・総会のご案内

2007 年度日本図書館文化史研究会研究集会・総会を、下記のように開催します。今年度の研究集会は、本研究会の創立 25 周年を記念しての、特別企画となりました。多くの方の参加を期待します。

記

- 日 程 : 2007 年 9 月 15 日 (土)・16 日 (日)
- 会 場 : 同志社大学 室町キャンパス 寒梅館地下 1 階会議室 (地 A)
京都市上京区烏丸通上立売下ル御所八幡町 103
- 交 通 : 京都市営地下鉄烏丸線今出川駅 2 番出口より徒歩 1 分
京阪本線出町柳駅下車徒歩 15 分
※ 会場・交通案内の地図は 7 ページに掲載しました。
また、次の URL をご参照ください。
<http://www.doshisha.ac.jp/access/index.html>
- 参加費 : 2,000 円 懇親会参加費 : 6,500 円
- 申込方法 : 氏名 (ふりがな)、所属、懇親会参加の有無、図書館見学会参加の有無を明記して、下記まで電子メール、ファックス、または葉書でお申し込みください。
- 申込先 : 〒321-3295 宇都宮市竹下町 908 作新学院大学
司書・司書教諭課程 小黒 浩司
電子メール : oguro@sakushin-u.ac.jp
ファックス : 028(670)3671
- 申込締切 : 2007 年 8 月 31 日 (必着)

○ プログラム

第 1 日 : 9 月 15 日 (土)

- 11:00-12:20 同志社大学図書館見学会
◆ 見学会の参加は、会員優先とし、先着順に受け付けます。
- (12:20-13:30 昼食休憩)
- 13:30-14:30 会員総会
- 14:40-14:50 開会挨拶
- 14:50-15:50 特別講演① 小川 徹 日本古代の図書館を考える
- 16:00-17:00 特別講演② 岩猿 敏生 図書館文化史と図書文化史
- 17:20-19:20 懇親会 (25 周年記念パーティ)
◆ 会 場 : 寒梅館 7 階レストラン (SECOND HOUSE will)
◆ 参加費 : 6,500 円

第 2 日 : 9 月 16 日 (日)

- 10:00-11:00 個人発表① 東北帝国大学時代の田中敬に関する一考察—
『図書館教育』を手がかりとして—
石川 賀一 (筑波大学図書館情報メディア
研究科)
- 11:00-12:00 個人発表② ジェシー・H・シェラが学部長を務めたウェス
タン・リザーブ大学ライブラリー・スクールの
歴史 (1904-79)
松崎 博子 (筑波大学図書館情報メディア
研究科)
- (12:00-13:00 昼食休憩)
- 13:00-14:00 個人発表③ もり・きよしの鳥取県立鳥取図書館時代
津村 光洋 (鳥取大学附属図書館)
- 14:00-15:00 個人発表④ 日本の大学図書館淵源史—帝国大学図書館の
成立—
高野 彰 (跡見学園女子大学)
- 15:00-17:00 運営委員会

- 昼食は、大学近辺の食堂で各自おとり下さい。今出川駅近くにはコンビニもあります。

研究例会発表募集のお知らせ

本研究会では、毎年度 3 回 (6 月頃、12 月頃、3 月頃) に研究例会を実施しています。研究例会での発表を希望される方は、次の各項を明記して、事務局までお申し込みください。

なお、2007 年度の第 2 回例会は関東地区での開催を予定しています。第 3 回例会につきましては、14 ページをご覧ください。

- 氏名 (所属)
- 連絡先 (住所、電話、メールアドレス等)
- 発表題目
- 発表要旨 (200 字程度)
- 発表時間 (通常質疑応答を含め 1 件 1 時間程度)
- 発表希望場所 (例: 関東、関西)

第 1 日

**日本図書館文化史研究会創立 25 周年記念
特別講演**

講演① 14:50-15:50

小川 徹

○ 講演題名

日本古代の図書館を考える

○ 講演要旨

最近の論考などから、日本図書館史の研究もようやくここまで来たかという思いがしますが、前近代、なかんずく古代・中世については専攻論文がほとんどなく、蓄積はゼロに近い状況です。そういうなかでこの領域で何をどう考えればいいのかは、つまりきながら模索していく以外にありません。ほんのわずかですが、奈良時代のことについて近年の古代史研究の成果によりつつ、二三考えてみようと思います。

講演② 16:00-17:00

岩猿 敏生

○ 講演題名

図書館文化史と図書文化史

○ 講演要旨

歴史研究は通常個別の過去の事実を研究対象とすることが多いが、その事実の持つ歴史的意味を明らかにするためには、その時代背景の理解が必要となる。個別の事実の時代背景の研究が通史研究であるが、通史研究で重要な意味を持つのが時代区分である。

私は図書館文化は図書文化の成立を前提とするので、図書館文化史の通史を考える時、図書文化を担当した階級の変遷によって時代区分を行い、古代から敗戦に至るまでの日本図書館史の通史の叙述を試みたが、当然のことながら多くの問題が残されている。そのいくつかをとりあげてみたい。それとともに、ペーパーレス時代に当面し、図書文化に基づく図書館文化をどのように考えるべきかを、過去の歴史に学びながら考えてみたい。

第 2 日

個人発表

発表① 10:00-11:00

石川 賀一（筑波大学図書館情報メディア研究科）

○ 発表題名

東北帝国大学時代の田中敬に関する一考察—『図書館教育』を手がかりとして—

○ 発表要旨

田中敬（1880-1958）は戦前、東北帝大附属図書館の司書官を務めるなど活躍し、戦後も図書館界に関わってきた人物である。その一方で『図書館教育』など多くの著作を残し、図書館学研究による博士号取得までに至った。戦前から日本の図書館界に影響を与えた人物であるとして、田中の死後、岩猿敏生らによって著作集が発刊された。しかし、これまでの田中の先行研究は書誌学方面や図書館学の研究において部分的に取り上げられるに止まっている。その一因として田中に影響を与えた沢柳政太郎との関係といった教育学との接点に関する検討が不十分であったと考えられる。本発表では東北帝国大学時代の田中の言説、『図書館教育』を中心に田中の図書館論とその教育観について検証を試みたい。

発表② 11:00-12:00

松崎 博子（筑波大学図書館情報メディア研究科）

○ 発表題名

ジェシー・H・シェラが学部長を務めたウェスタン・リザーブ大学ライブラリー・スクールの歴史（1904-79）

○ 発表要旨

ジェシー・H・シェラが1952-71年のあいだ学部長を務めた（ケース・）ウェスタン・リザーブ大学ライブラリー・スクールは、学内にドキュメンテーションセンターを設置し（1955）、機械による情報検索の先端を行ったことで知られる。

しかしながら、19世紀の終わりから20世紀中葉にかけて、何不自由ない暮らしを享受できたにもかかわらず身を粉にして働き、図書館に関わる技術の発展、伝達に没頭したひとたちの、開学以前から続く連続がそこにあったことや、1950-60年代、図書館学の学際性を説いたシェラが、ここをサブジェクト・ライブラリアン養成の実践の場としていたことについては具体的には日本では知られていない。これについて発表したい。

発表③ 13:00-14:00

津村 光洋（鳥取大学附属図書館）

○ 発表題名

もり・きよしの鳥取県立鳥取図書館時代

○ 発表要旨

NDCの考案者もり・きよしは、1931年6月から約3年半にわたって鳥取県立鳥取図書館に勤務した。鳥取図書館は、1931年7月に開館しているが、その後数年間にわたり主任司書の河野寛治を中心に、利用者の団体活動、巡回文

庫など、その歴史の中でも特に注目される活発な活動を行っていた。また、新聞記者など地域の文化人のたまり場にもなり、鳥取図書館を中心とする様々な文化活動を指して、鳥取では「図書館の屋根の下」という言葉が広く使われるまでになった。当時 20 代の後半であったもりは、これらの活動から強い影響を受けるとともに、彼自身もまた、その活動の中で重要な役割を果たしていた。

発表④ 14:00-15:00

高野 彰 (跡見学園女子大学)

○ 発表題名

日本の大学図書館淵源史—帝国大学図書館の成立—

○ 発表要旨

東京大学は明治 10 年に誕生した。そして同 19 年 3 月には名称を帝国大学と改称すると共に、体制を大幅に変革する。図書館は東京大学の時代から存在したが、変革の嵐を免れることはなかった。この変革によって帝国大学図書館はどの様にそしてなぜ変革したのであろうか。発表ではこの点について説明をする。このように書くと、この発表は 1 特定大学の図書館史と誤解されがちであるが、日本の大学図書館の淵源史でもある。

会員総会 (第 1 日 13:30-14:30)

これまで会員総会は、2 日目の個人発表の後に実施してきましたが、今回多くの方に参加していただけるように、1 日目の特別講演の前に設定しました。

会員総会では、次のような案件の審議を予定しています。なお、その他検討すべき議案などがあれば、事務局までご連絡ください。

議事内容

1. 日本図書館文化史研究会 2006 年度活動報告(2006.4-2007.3)

2006 年度の活動内容をご報告します。9 ページの資料をご参照ください。

2. 日本図書館文化史研究会 2006 会計年度決算報告(2006.4-2007.3)

2006 会計年度の決算をご報告します。10 ページの資料をご参照ください。

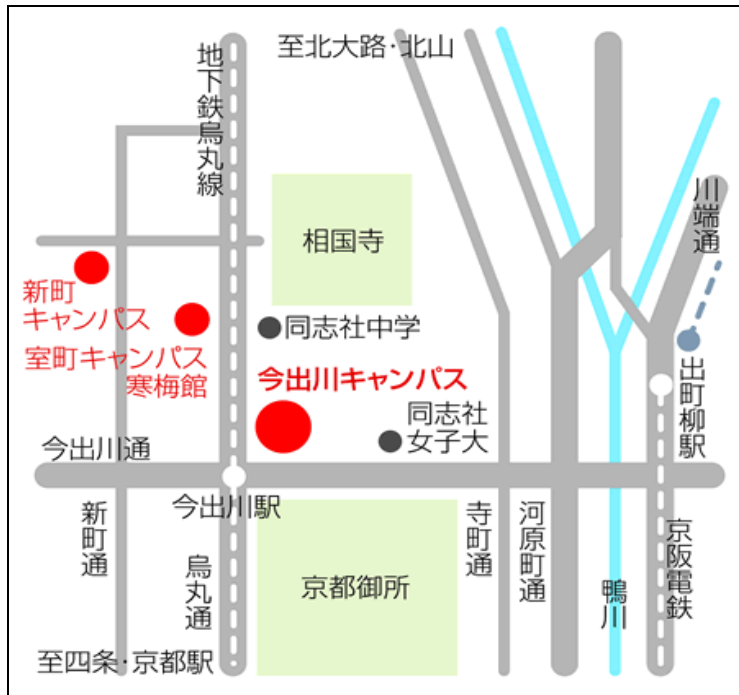
3. 日本図書館文化史研究会 2007 年度予算 (案)

2007 年度の予算、ならびに活動計画を提案します。11 ページの資料をご参照ください。

4. 創立 25 周年記念事業について

創立 25 周年記念事業について、ご審議をお願いします。

会場案内



日本図書館文化史研究会創立 25 周年記念

『図書館人物伝（仮称）』の概要

- 仮タイトル 図書館人物伝
- 編著者 日本図書館文化史研究会
- 出版社 日外アソシエーツ
- 体裁 A5版 並製 約 500 ページ
- 予価 未定
- 刊行予定日 2007 年 9 月頃

目 次

○ 日本人篇

- | | |
|------------------------------------|-------|
| 1. 覚え書き 秋田県立秋田図書館長佐野友三郎のこと | 小川 徹 |
| 2. 図書館員教習所設立の意義：乗杉嘉寿に焦点をあてて | 坂内 夏子 |
| 3. 帝国図書館長松本喜一について | 鈴木 宏宗 |
| 4. 森清の生涯と業績：間宮不二雄との交流を軸として | 石山 洋 |
| 5. 府中市立図書館長大西伍一 | 小黒 浩司 |
| 6. 情熱の図書館人、村上清造：薬学図書館から公共図書館運動への軌跡 | 参納 哲郎 |
| 7. 叶沢清介の図書館づくり：PTA 母親文庫まで | 石川 敬史 |
| 8. 半月湯浅吉郎、図書館を追われる | 高梨 章 |
| 9. 志智嘉九郎の業績について：レファレンスサービスを中心に | 伊藤 昭治 |
| 10. 「道の島」に本を担いで：奄美の図書館長・島尾敏雄 | 井谷 泰彦 |

○ 外国人篇

- | | |
|---|-------|
| 11. ヴァルター・ホーフマン小伝 | 河井 弘志 |
| 12. 児童図書館員リリアン・スミス小伝 | 深井 耀子 |
| 13. ジョン・ショウ・ビリングスの二つの生涯 | 藤野 寛之 |
| 14. ジョン・コットン・デイナの生涯と図書館哲学 | 山本 順一 |
| 15. アメリカ公共図書館における自動車図書館文庫の先駆者メアリー・レミスト・ティッコム | 中山 愛理 |
| 16. ピアス・バトラーの図書館学における理論と実践：書物観を中心に | 若松 昭子 |
| 17. 戦後占領期初代図書館担当官キーニー | 三浦 太郎 |
| 18. 20 世紀アメリカのライブラリアンそして図書館学者ジェシー・H・シェラについて | 松崎 博子 |
| 19. セーチャーニ・フェレンツの生涯：ハンガリー国立セーチャーニ図書館の設立者 | 伊香左和子 |
| 20. 「はだしのライブラリアン」の足跡：ヘディッグ・アニューアールと東南アジア図書館界の発展 | 宮原志津子 |

日本図書館文化史研究会
2006年度活動報告（2006.4—2007.3）

1. 第23回研究集会・総会の開催

参照：『ニューズレター』第97号

期 日 2006年9月9・10日

会 場 甲南大学

- 第1日目は、シンポジウム「もり・きよし一生涯100年一」を実施した。第2日は個人発表4件と総会を実施した。
- 総会では、2005年度活動報告、2005年度決算報告、2006年度予算、創立25周年記念事業等が審議された。

2. 機関誌『図書館文化史研究』第23号の刊行（2006年9月）

2005年度シンポジウムの記録、論文1篇、研究ノート3篇を掲載し、刊行した。

3. 会報『ニューズレター』の編集刊行

第96号を2006年5月、第97号を同8月、第98号を同10月、第99号を2007年1月に刊行した。

4. 研究例会

(1)第1回例会（期日：2006年7月1日、会場：明治大学）

2件の発表を実施した。

参照：『ニューズレター』第97号

(2)第2回例会（期日：2006年12月2日、会場：豊橋市中央図書館等

羽田八幡宮文庫址見学等を実施した。参照：『ニューズレター』第98号

(3)第3回例会（期日：2006年3月17日、会場：明治大学）

2件の発表を実施した。

参照：『ニューズレター』第99号

5. 運営委員会の開催

2006年7月1日（明治大学）、9月10日（甲南大学）、2007年2月3日（明治大学）、3月17日（明治大学）の4回実施

6. 会員動向

2007年3月末日現在 180：名（うち名誉会員3名）

（06年167名、05年：161名、04年：152名、03年：146名）

新入会：19名（06年：13名、05年：10名、04年：12名、03年：10名）

退 会：5名（06年：7名、05年：1名、04年：6名、03年：4名）

日本図書館文化史研究会
2006会計年度決算報告(2006.4-2007.3)

収入 1,232,013

	金額	備考
郵便局貯金受取利息	16	
会費	547,150	
前事務局振込・03年度分	3,000	1名
前事務局振込・07年度分	3,000	1名
前事務局振込・08年度分	3,000	1名
前事務局振込・09年度分	3,000	1名
05年度決算追加・04年度分	3,000	1名
05年度決算追加・05年度分	6,000	2名
05年度決算追加・06年度分	3,000	1名
05年度決算追加・振込手数料	-210	70円3件
05年度分	6,000	2名
06年度分	513,000	170名(ほか前年度納入済3名、名誉会員3名、未納3名)
06年度分	3,100	100円過納*1名
06年度分	7,200	600円過納*2名
07年度分	9,000	3名
同振込手数料	-14,940	60円54件、100円117件(ほか自己負担等4件)
2005年度繰越金	614,838	
研究会会剰余金	70,009	詳細略

支出 538,674

	金額	備考
『図書館文化史研究』23号制作・発行費	363,939	
日外支払い	329,160	
日外支払い	7,644	追加購入分
奥泉氏立替分	640	
奥泉氏立替分	1,500	
奥泉氏立替分	1,000	
抜き刷り制作費	18,900	
同振込手数料	105	
同送料	4,150	6件(奥泉氏立替)
送料	600	海外会員分
寄贈分	240	追加寄贈
『ニューズレター』96号制作・発行費	27,415	
印刷費	11,550	
振込手数料	105	
送料(1)	15,570	173通*90円
送料(2)	190	海外会員分
『ニューズレター』97号制作・発行費	53,965	
印刷費	19,950	
印刷費	18,900	『会員名簿 2006』
振込手数料	315	
送料(1)	13,680	
送料(2)	1,120	海外会員+寄贈分
『ニューズレター』98号製作・発行費	40,295	
印刷費	25,200	
振込手数料	105	
送料(1)	14,800	185通*80円
送料(2)	190	海外会員分
『ニューズレター』99号製作・発行費	28,015	
印刷費	12,600	
振込手数料	105	
送料(1)	15,200	190通*80円
送料(2)	110	海外会員分
第2回研究例会費用不足分	6,690	詳細略
事務局経費	18,355	
通信費	12,080	詳細略
事務用品等購入	6,275	詳細略
2007年度への繰越金	693,339	

監査の結果、帳簿の記入、事務処理が適正に行われていたことを報告します。

監事 山本 順一 印
監事 山口源治郎 印

日本図書館文化史研究会 2007年度予算(案)

収入	1,217,852	
	金額	備考
郵便局貯金利子	113	
会費	524,400	
	2007年度分 540,000	180名×3,000円
	同振込手数料 -15,600	120名×100円、60名×60円
2006年度繰越金	693,339	
支出	1,126,000	
	金額	備考
『図書館文化史研究』24号発行費	350,000	
『ニューズレター』発行費	141,000	
	100号 31,000	(発行済)
	101号 40,000	
	102号 40,000	
	103号 30,000	
25周年記念事業費(研究集会運営費)	600,000	(詳細略)
研究会運営費	10,000	
	第1回例会 0	
	第2回例会 0	
	第3回例会 10,000	
事務局経費	25,000	
	通信費 15,000	
	運営委員会開催費等 10,000	
2008年度への繰越金	91,852	

『図書館文化史研究』24号発行のお知らせ

機関誌『図書館文化史研究』第24号が、まもなく刊行されます(本文168ページ、価格2,200円程度)。目次は以下のとおりです。

○ シンポジウム

もり・きよし—生誕100年—

シンポジウム開催の趣旨

NDCの誕生とその成長過程を巡って—標準分類法の成立へ—

国立国会図書館(NDL)時代のもり・きよし

恩師もり・きよし先生の遺徳—青葉学園短期大学時代—

志保田 務

石塚 栄二

石山 洋

宮内美智子

○ 論文

射和文庫の蔵書構築と納本—近世蒐書文化論の試み I —

森清と草創期の鳥取県立鳥取図書館—1931～1934年を中心に—

高倉 一紀

津村 光洋

○ 研究ノート

満州開拓地読書運動—中田邦造を中心に—

日本最初の女性図書館学留学生

呼物はロダン—美術の中の京都図書館—

榎谷 純一

宮崎真紀子

高梨 章

『図書館文化史研究』第25号原稿募集のお知らせ

機関誌『図書館文化史研究』第25号の原稿を募集中です。

原稿の締切は2007年12月末日です。ふるってご投稿ください。

なお、この件に関するお問い合わせ、ならびに原稿の送付先は別記事務局までお願いします。

『ニューズレター』原稿募集のお知らせ

ニューズレターの原稿を常時受け付けています。

次号(102号)掲載を希望される場合、2007年9月末日までに別記事務局まで原稿をご送付ください。

今後ニューズレターで、図書館文化史研究に関わる文献・情報を速報していきたいと思っております。会員・非会員の問わず、関連業績を事務局までご連絡ください。皆様のご協力をお願いします。

日本図書館文化史研究会

2007 年度第 1 回研究例会報告

6 月 2 日、2007 年度第 1 回研究例会が、明治大学司書・司書教諭課程室を会場に開催されました。参加者は 22 名でした。

今回の研究例会は、当初明治大学リバティタワー1084 教室を会場に開催する予定でした。ところが麻疹（はしか）の流行のため、明治大学でも 5 月 25 日から 1 週間全学休講となり、例会会場であるリバティタワーも、入構禁止となりました。このため研究例会は、会場を急遽変更して実施することになりました。開催間際の突然の会場変更により、発表者、参加者の皆さまにご迷惑をおかけしましたこととお詫び申し上げます。

今回の研究例会では、下記お二人の発表とともに、井上氏ご提供の映像資料 3 本の上映を行ないました。今後研究会では、図書館に関する映像資料や写真等の発掘と保存に取り組んで行きたいと考えます。皆さまのご協力をお願いします。

なお、研究集会の発表レジユメをご希望の方は、事務局までお申し出ください。『ニューズレター』次号に同封してお届けします。

【発表 1】

○ 発表者

井上 靖代（獨協大学）

○ 発表題名

映像にみる図書館の歴史

○ 発表要旨

文献による検証にもとづく歴史研究は、図書館用具などの実物の活用やその影響などにもとづく歴史検証を包括しているが、映像資料が社会に登場し図書館に深く関わりを持つようになってからおよそ 100 年が過ぎる。今回の発表は図書館活動を記録したアメリカと日本での 16mm フィルムを上映し、歴史史料としての検証のてがかりとした試みである。

戦後、GHQ によるアメリカ民主主義の情報宣伝活動の一環としての図書館紹介フィルムはほかの社会教育映画とともに全国各地で上映された。それらの映画が日本の図書館活動にどのような影響を与えたのだろうか。

また例会では広島での図書館活動の記録を上映したが、こういった記録映画フィルムをはじめとして、各図書館が新館開館記念に作成した図書館建築や活動紹介映像資料はどこで、いつ、どのように保存されているのだろうか。これらの映像資料は時とともに図書館活動を記録した史料として、検証されるべきものであろう。

CIE のナムコ機とともに全国に上映配布された映画上映活動は、図書館をはじめとして社会教育分野にあまり積極的とはいえない感情を残しているようである。旧図書館司書課程のなかに設けられた「視聴覚教育」科目は現在なくな

っているが、現場における図書館メディア資料の多様化とともに再検討されるべきものであろう。

また、図書館史研究史料としての映像資料群は、図書館の倉庫に眠っていたり所蔵目録に記載されていないなかったり、あるいは視聴覚ライブラリーやフィルム・ライブラリーに移管され所在不明になっていたりと、文書館の資料になっていたりとその全体像は明らかではない。図書館史検証の資料所在把握として、図書館に関する映像作品のリスト化を課題としたい。

【発表2】

○ 発表者

吉田 右子（筑波大学）

○ 発表題名

20世紀前半期の公共図書館におけるメディアサービス

○ 発表要旨

アメリカ公共図書館におけるラジオとテレビの受容について、1920年代から1950年代までの動向を報告した。脚本集 *Library on the Air* に現われる図書館ラジオ放送番組を、PR 番組、児童向け番組、教育番組に類型化し、放送活動が図書館サービスとどのように結びついていたのかを考察した。また後続の図書館テレビ放送についても具体例を挙げながら図書館でのメディアサービスの可能性について言及した。図書館放送活動は(1)広報活動、(2)教育機関としての放送活動、(3)マスメディアを利用した図書館サービスの可能性、(4)コミュニティメディアとしてのラジオと図書館という観点からみていくことができることを示した。さらに図書館員のメディアにたいする柔軟な考え方と、図書館における PR 活動への取り組みが結びついて、放送ムーブメントが起こったことを明らかにした。

日本図書館文化史研究会
2007年度第3回研究例会のご案内

2007年度第3回研究例会を、西日本図書館学会との共同開催で、おおむね下記のように実施することになりました（西日本図書館学会は、2007年度西日本図書館学会公開セミナーとして実施します）。

なお、例会内容等の詳細については、決定次第『ニューズレター』や研究会のウェブサイトでご案内します。

○ 日時： 2008年3月8日（土）

○ 場所： 山口県立山口図書館（山口市後河原 150-1）

<http://library.pref.yamaguchi.lg.jp/>

運営委員会通信

■ ■ 次回運営委員会について ■ ■

次回運営委員会を、下記のように開催します。本研究会の運営に興味・関心のある方は、是非ともご参加ください。

当日ご都合の悪い方は、別記事務局まで郵便、ファックス、または電子メールで、ご意見、ご希望等をお寄せいただければ、運営委員会で検討いたします。

記

- 日 時 9月16日(日) 15時～17時
- 場 所 同志社大学寒梅館
- 内 容
 1. 2007年度第2回研究例会について
 2. 2007年度第3回研究例会(西日本図書館学会との共催)について
 3. 2008年度研究集会・総会について
 4. 25周年記念事業について
 5. 『図書館文化史研究』第24号について

ほか

■ ■ 前回運営委員会の報告 ■ ■

実施日：2007年6月2日

場所：明治大学 アカデミーコモン8階 司書・司書教諭課程室

以下のような事項について、協議しました。

1. 2006年度決算について
2. 2007年度予算案について
3. 『図書館人物伝(仮称)』について
4. 25周年記念事業予算案について
5. 2007年度研究集会について
6. 『図書館文化史研究』第24号について
7. 2007年度第1回研究例会について
8. 2007年度第3回研究例会について
9. 『ニューズレター』第100号について
10. 『ニューズレター』第101号について
11. 会員動向
12. 次回運営委員会について

事務局だより

■■ 会費納入のお願い ■■

2007年度会費をまだ納入されていない方は、至急ご送金ください。振替用紙は前号に同封しましたが、見当たらない方は事務局までご請求ください。

■■ 住所変更等のご連絡をお願いします ■■

研究会からの刊行物の送り先などについて変更が生じた場合、早めに事務局までご連絡ください。

■■ 会員動向 ■■

新入会

- いぶき 覚 (福井大学留学生センター)
研究分野：日本文庫史
- 坂本 俊 (筑波大学図書館情報メディア研究科博士後期課程)
研究分野：公共図書館、デンマーク
- よう とう 楊 韜 (名古屋大学大学院国際言語文化研究科博後期課程)
研究分野：メディア史、日中文化交流
- まいたに 優子 (小松短期大学)
- 松田 泰代 (京都大学大学院人間・環境学研究科)
研究分野：近世江戸における商業出版
- 柳 勝文 (龍谷大学)

勤務先変更

- 梅澤 幸平 (滋賀県県文化生活部県民情報室)
- 宇治郷 毅 (同志社大学)
- 小林 卓 (実践女子大学)
- 浅岡 邦雄 (中京大学)

退会

- 佐藤 高虎
- 早坂 信子